慶應大阪シティキャンパス　夕学サテライト講座
《 2014 年度後期 》 サテライト 受信スケジュール

慶應大阪シティキャンパス「夕学サテライト講座」は、東京丸の内シティキャンパス（慶應 MCC）で行う定例講演会「夕学五十講」のうちの一部講演を、インターネット回線を通じてライブ中継により、リアルタイムで受講するものです。 2014 年度後期は 12 講演受信いたします。

2014/ 9/ 5（金）11:00 より申込受付開始（Web / Fax）

時　間：18:30～20:30（開場 18:00）　　会　場：慶應大阪シティキャンパス（KOCC）
講座料：全 12 講演一括申込 20,000 円，　個別申込 1 講演@2,000 円※
※個別申込は、一度のお申込枚数３枚につき 500 円割引制度有。

＊下記は 2014/8/29 現在の調整予定です。事情により講演者・日程等が変更となる場合がありますことをご了承ください。

１．講演スケジュール（全 12 講演）　開催日・講師名・タイトル		主催：慶應学術事業会
① 10/2　藤原和博 正解のない問いに向き合う力	⑤ 11/11　桜井博志 ピンチはチャンス！ ～「獺祭」を世界にとどける～	⑨ 12/11　安藤俊介 怒りをコントロールする技術
② 10/9　高岡浩三 成熟先進国における ビジネスモデルイノベーション	⑥ 11/13　安冨歩 ドラッカーと論語：未来を切り開くマネジメントの思想	⑩ 1/15　西澤直子 「一身独立」して「一国独立」す ～福澤諭吉からのメッセージ～
③ 10/21　武田双雲 ポジティブの教科書	⑦ 12/3　水野学 いま経営に必要なブランディングとデザイン	⑪ 1/23　内田和成 既存事業の防衛戦略 --新たな挑戦者にどう対応すべきか--
④ 11/4　松山大耕 禅とグローバリゼーション	⑧ 12/9　駒形哲哉 中国の社会主義市場経済は続くのか	⑫ 1/28　中村和彦 組織開発のすすめ

２．講師＆講演紹介　　日付の右横＜　＞内は 2014 年度後期夕学講座の講座テーマです。

■10 月 2 日（木）　＜自分の頭で考える＞
藤原 和博（ふじはら　かずひろ）　　教育改革実践家

「正解のない問いに向き合う力」

今の日本に蔓延する正解主義では社会構造や組織の変化には対応できない。必要なのは情報を編集し最適解を見つける力だ。ビジネスや教育改革の最前線で活躍してきた藤原氏ならではの視点からよりよく生きるためのヒントを語る。

「たった一人からの教育改革」を旗印に、リクルート出身の民間人校長として、公立中学校の改革に取り組み、当時の橋下大阪府知事の特別顧問を経て、現在は佐賀県武雄市の教育改革特別顧問を務められる藤原氏。本講演では、ベストセラー『坂の上の坂』や『３５歳の教科書』で示した、人生に役立つキャリア形成や人間関係の築き方など、多くの「藤原流・生きるヒント」を得られるのではと期待が高まる。

■10 月 9 日（木）　＜先が見えない時代の経営論＞
高岡 浩三（たかおか　こうぞう）　　ネスレ日本株式会社　代表取締役社長兼ＣＥＯ

「成熟先進国におけるビジネスモデルイノベーション」

成熟しモノがあふれる日本。その状況下、食品という利益率が低い業界でキャンペーンのヒットやビジネスモデル変革により高収益体質企業への転換を実現した高岡氏が登壇。社内や市場の常識に挑戦し続け変革に至るまでのストーリーを語る。

神戸大学経営学部卒業後、ネスレ日本株式会社入社。ネスレと共に人生を歩み、「キットカット受験生応援キャンペーン」を成功させるなど、利益率の低い日本の食品業界において、新しいビジネスモデルを追求しながら超高収益企業の土台を作ってこられた高岡氏。2010 年には、「ネスカフェ アンバサダーシステム」というビジネスモデルを構築し、日本人として初めて、ネスレ日本社長に就任。

■10 月 21 日（火）　＜この人に聞く＞
武田 双雲（たけだ　そううん）　　書道家

「ポジティブの教科書」

誰しも人生の山や谷にポジティブな気持ちで臨みたいもの。しかし、がむしゃらに前を向き続けていれば良い訳ではない。書道と共にしなやかに生き、ピンチをチャンスに変え、成長の糧としてきた武田氏ならではの知恵と技術をお聞きする。

3 歳から母で書家の武田双葉（そうよう）さんに書を叩き込まれた武田氏。日本の伝統芸道を継承しつつ、ロックアーティスト等、様々な方面でのコラボレーションも実践されるなど新しいフィールドにも挑戦し、活動への評価も高い。2013 年には、文化庁より文化交流使の指名を受け、日本大使館主催の文化事業などに参加し、海外に向けて、日本文化の発信を続けている。

■11 月 4 日（火）　＜気鋭の論客に聞く＞
松山 大耕（まつやま　だいこう）　　妙心寺退蔵院　副住職

「禅とグローバリゼーション」

達磨大師が伝え中国を経て日本で独自の発展を遂げた禅に世界の注目が集まっている。禅や日本文化を発信し国内外の様々な宗教家と交流を重ねてきた松山副住職が我々の身近にあって未知なるその世界、日常生活への活用法を語る。

東京大学大学院農学生命科学研究科修了後、埼玉県新座市・平林寺にて 3 年半の修行生活を経て現職を務めている松山氏。外国人に禅体験を紹介するツアーを企画するなど、次々と自由な発想で新しいチャレンジに取り組み、その活動の評価も高く、2011 年に日本の禅宗を代表しヴァチカンにて前ローマ教皇に謁見、2014 年には世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）に出席するなど、世界のさまざまな宗教家・リーダーと交流されている。

■11 月 11 日（火）　＜先が見えない時代の経営論＞
桜井 博志（さくらい　ひろし）　　旭酒造株式会社　代表取締役

「ピンチはチャンス！～「獺祭」を世界に届ける～」

空前の「獺祭」ブームは絶体絶命のピンチから生まれた。山口県の小さな蔵元を継ぎ、大胆な発想転換と果敢な挑戦心で世界 24 の国と地域で販売されるほどの大ヒットブランドに育て上げた桜井社長が逆境をチャンスに変えたこれまでの道のりを語る。

父の急逝により 34 歳で酒蔵を継いだ桜井氏。当時は山奥の小さな酒蔵で、販売不振に陥っていた状態だったが、1991 年に発売した日本酒「獺祭（だっさい）」が、いまや、純米大吟醸の販売量で日本一を誇る。紆余曲折を経て、負け組からトップメーカーに躍り出た旭酒造から、大逆転経営を学びたい。

■11 月 13 日（木）　＜自分の頭で考える＞
安冨 歩（やすとみ　あゆむ）　　東京大学東洋文化研究所 教授

「ドラッカーと論語：未来を切り開くマネジメントの思想」

マネジメントの発明者と東洋を代表する古典の共通点は何か。時間と空間を越えて読み継がれてきた両者は人間と組織の本質に迫る点において共鳴するという。東大話法の指摘で名を上げた異才安冨教授が知の巨人達を読み解く。

著書『原発危機と「東大話法」』で提唱した「東大話法」で一躍有名になった安冨先生は、東洋文化が専門ではあるが、京都大学、同大学院で経済学を学び、銀行勤務もある異色の経歴の持ち主。だからこそ、ドラッカー、そして孔子に向き合

う中で、両者の思想を対比して読むことにより、どちらもより深く理解できる、ということを見出された。その真髄を聞きたい。

■12 月 3 日（水）　＜共感と共生の方法論＞
水野 学（みずの　まなぶ）　　クリエイティブディレクター、慶應義塾大学特別招聘准教授

「いま経営に必要なブランディングとデザイン」

技術では差別化が難しくコンセプトの秀逸さだけでは勝ち残れない時代となった。ゆるキャラの代名詞「くまもん」のデザイナーで、国内外のデザイン賞を数多く受賞してきた水野氏がデザインからのブランディングを語る。

多摩美術大学でグラフィックデザインを学び、 25 歳で独立。以来、ブランド作り、ロゴ制作、商品企画・デザインなどをトータルにディレクションし、世界三大広告賞を数多く受賞するなど、国内外から高い評価を得ている水野氏。熊本県の PR キャラクター“くまモン”の産みの親としても有名。

■12 月 9 日（火）　＜気鋭の論客に聞く＞
駒形 哲哉（こまがた　てつや）　　慶應義塾大学経済学部 教授

「中国の社会主義市場経済は続くのか」

社会主義型の市場経済という独特の経済システムを作りあげ、高度経済成長を続けている中国。矛盾するはずの経済体制を維持できるのか。それとも壁に突き当たるのか。現代中国経済を専門とする若き経済学者、駒形教授に聞く。

慶應義塾大学経済学部卒業後、1 年ほど中国南開大学に留学し、財団法人霞山会入職。獨協大学講師、慶應義塾大学講師、准教授を経て、現職。専門は、中国経済論、経済体制論で、経済の実証的な研究のためには、現場感覚が必要であるとの考えの元、大学の講義でも一部現場調査を取り入れている。

■12 月 11 日（木）　＜共感と共生の方法論＞
安藤 俊介（あんどう　しゅんすけ）　　一般社団法人日本アンガーマネジメント協会　代表理事

「怒りをコントロールする技術」

苛立ちや怒りの感情をコントロールできずに自己嫌悪に陥った経験はないだろうか。精神論や躾に頼らずトレーニングによってそれを身につけるアンガーマネジメントの草分け、安藤氏が無駄にイライラせず上手に怒る方法を伝授する。

現在、文部科学省も注目している感情理解教育「アンガーマネジメント」。安藤氏自身も、ニューヨークで出合い、怒りを理解し、うまくマネジメントする手法を実践するうちに、自分自身が生まれ変わったような気分になり驚いたという。その経験から、日本人としてはじめてのナショナルアンガーマネジメント協会、アンダーソン&アンダーソン、MFTNY 公認のアンガーマネジメントファシリテーターとなり、その理論と技術をアメリカから導入している。

■1 月 15 日（木）　＜自分の頭で考える＞
西澤 直子（にしざわ　なおこ）　　慶應義塾福澤研究センター 教授

「「一身独立」して「一国独立」す」

没後 100 年以上を経た今でも福澤諭吉の思想が新鮮に響くのはなぜか。近代日本史の解明につながる書物や資料が数多く眠る福澤研究センターに勤める西澤教授がこれまでの研究を踏まえ現代に生きる我々が福澤に何を見出せるのかを語る。

中学より慶應義塾で学び、慶應義塾大学文学部史学科国史学専攻卒業後、立ち上がったばかりの慶應義塾福澤研究センターで働きはじめる。慶應義塾大学大学院文学研究科史学専攻国史学分野の修士課程修了後、慶應義塾福澤研究センターの常勤嘱託となり、結婚出産を経て、2001 年の福澤諭吉没後百年には記念出版物である『福澤諭吉著作集』の編纂委員や「世紀をつらぬく福澤諭吉展」の実行委員を務め、助教授を経て現職。『慶應義塾史事典』、『福澤諭吉事典』、『慶應義塾 150 年史資料集』各編集委員を務める。

■1 月 23 日（金）　＜先が見えない時代の経営論＞
内田 和成（うちだ　かずなり）　　早稲田大学ビジネススクール 教授

「既存事業の防衛戦略―新たな挑戦者にどう対応すべきか―」

携帯電話の進化でゲーム機や腕時計が売れなくなる。意図せざる戦いに巻き込まれた企業は自らをどう守るべきか？トップコンサルタント、教授として数多のケースに接してきた内田教授が激化する異業種間競争での生き残り戦略を語る。

ボストンコンサルティンググループ（BCG）で 2004 年末まで日本代表を務め、アメリカの「Consulting Magazine」誌により「世界の有力コンサルタント 25 人」に選出された内田先生。「難しいことを易しく教える」をモットーに、大学や社会人向けの講演などに多数登壇。

■1 月 28 日（水）　＜共感と共生の方法論＞
中村 和彦（なかむら　かずひこ）　　南山大学人文学部心理人間学科 教授

「組織開発のすすめ」

日本企業は構造や制度の改革に取り組んできた。しかし組織全体の活性化には構成員同士の関係の質を高めることも必要だ。アメリカで発展してきた組織開発に詳しい中村教授にその特徴、個人やチーム活性化へのヒントをお聞きする。

名古屋大学大学院教育学研究科教育心理学専攻後期博士課程満期退学。教育学修士。米国 NTL Institute 組織開発 Certificate Program 修了。好きな言葉は“There is nothing so practical as a good theory. (by K.Levin):「優れた理論ほど実践的なものはない」”を挙げるように、理論を実践でいかに生かすかに関心を持ち、トレーニングや組織開発コンサルティングなど、様々な現場における実践に携わるとともに、実践と研究のリンクをめざしたアクションリサーチに取り組む。